訪づれ社長並びに專務に會見を申込しに不在を理由として池澤庶務課長と會見交渉したる處々べなく一蹴されたので、會長栩原豐一氏はその旨一同に報告するや、南海先驅者同盟の河本幹次君は「交渉破れた高野山へ行け」云々のビラを一同に散布して堺署員に檢束され、講場は大混亂に陷つてそのまゝ解散された。

◇罷業の勃發

大濱會場を雪崩出た大衆は三三五五堺東驛（高野線）に落合ひ、先發隊として漸次登山するに至つた、一方會社側では、午後三時頃同志會青年部の中堅闘志岸田奈良吉外九名に解雇の通告を渡した處、十名はそれを突返したので、會社は速達便でそれ〴〵自宅に送付した、これに誘發されたが「高野山」へ行けのビラは各沿線に飛び、午後四時二十分和歌山發より續々從業員は下車を始め、急天直下罷業は擴大するに至つた。

（十四日大阪時事新聞）

罷業は遂に變電所車輛へも波及し玉出變電所從業員百八十名の過半天下茶屋車輛工場の同志第八支部三千名（參加せず）は何れも罷業に參加し、夜に入り同志會員は變裝密行して、本線各驛附近に至り信號所轉轍手その他現業員に檄を發し盛んに策動を始め、一方反同志會の不言實行會員も檄を散布して罷業反對を聲明し、午後八時両者は偶然にも天下茶屋驛附近に於いて衝突し、相對して檄の宣傳戰を開始されていた、一方午後七時十五分難波驛構内及惠美須構内の南海食堂從業員全部は罷業に參加し、午後九時に至つて、和歌山濱寺の食堂も閉鎖された

（十四日大阪時事）

大會散會後幹部山下近市他二名は直に、高野山普賢院に上り藤木院主に面會して、千餘名の會員が今夜中に登るから宿所たのむと交渉した、普賢院では金剛峰寺藤村執行長にその旨を告げその取扱方について協議中で、南海本社に對し、どうしていゝかと電話でその由を告げた、南海本社では所轄高野署と相談の上然るべく取計らつて呉れと返事したので、院主は警察當局と談合中早くも九時四十分二十人を先着として、二三十人づゝ一組となつて、續々登山し、宿所普賢院に落つき、一風呂あびて夜十一時同寺の廣間で一同夕食を取つたが、十四日午前二時までに到着したもの四百五十人に登り、本線の從業員が主で、まだ續々夜中登山してゐるものもあり、高野線の從業員も夜明け頃から朝までには登山するらしいので全部で九百名餘りに成るらしい、普賢院には「南海同志會宿所の看板をかゝげ、同志會の會旗は月光を浴びて立つてゐる、宿所には普賢院、三百五十名を始め常寺院、蓮華院、普門院、瀑照光院などが充られてゐる、高野山に入つた罷業團の藤林書記長は語る「勢やむなくこゝに及んだ譯です、原因は會社側の高壓的なやり方に憤慨してゐたに加へて栩原會長と自分とを解雇したことが從業員大會の爆發となり、吾々は敢然と會社の挑戰に應じて立つた次第です、今夜は續々と山麓から登つてくる同志を迎へ善後策を協議する筈です」（十四日大阪朝日）

高野線の方でも午後七時から從業員中下車するものが續出して來たので運轉回數に故障を生じ、本社から事務員その他運轉に多小共經驗のあるものを繰出し辛じて混雜を防いでいる。（十四日大阪朝日）